

# 太子堂五丁目・若林二丁目地区 フィールドワーク

テーマ：防災

～安心して住み続けるための  
環境づくり～

日時：令和2年12月19日（土）  
午後1時30分～4時30分

場所：太子堂小学校体育館



## 2. 防災について

---

- ◆ 地域のみなさんの意見
- ◆ 問題の要因
- ◆ 事例紹介

# 地域のみなさんの 意見

---

意見の概要とテーマ設定の理由

# 地域のみなさんの意見 ①オープンハウス

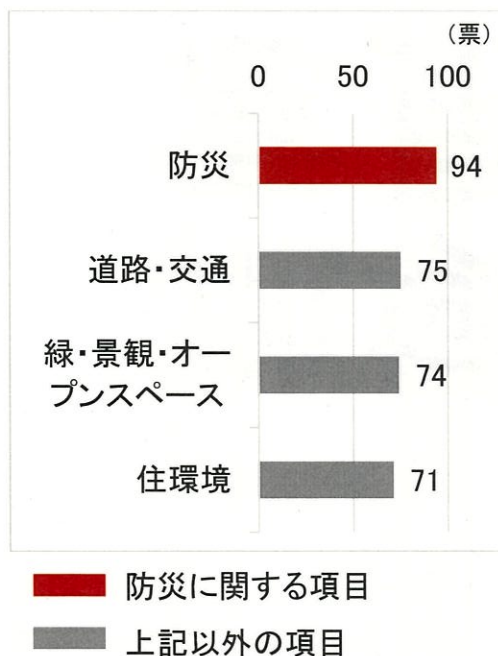
地域のみなさんが関心のある街づくりのテーマ(シール投票の結果)

## 防災に対する 関心が高い

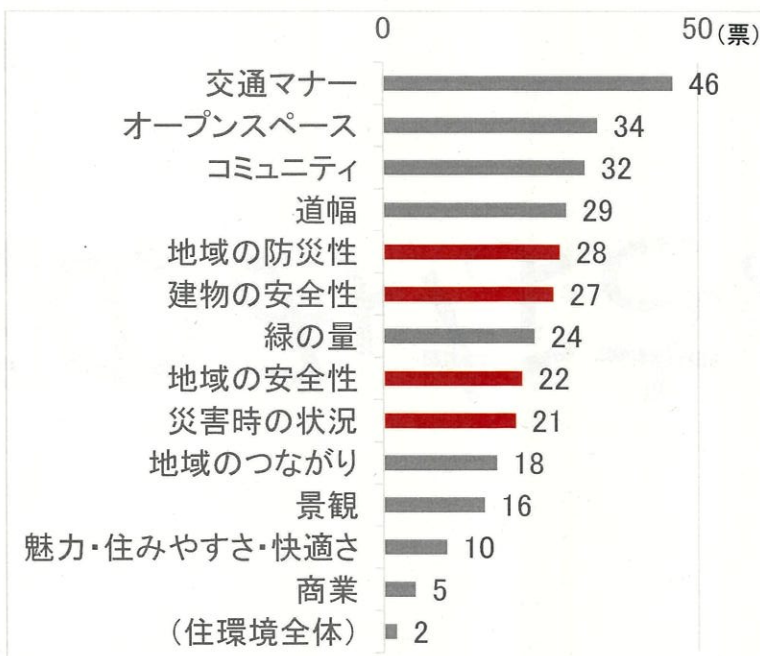
- ・大項目:「防災」が最も多い(94票)。
- ・小項目:「古い建物」(18票)や「緊急車両の通行」(12票)が上位に来ている。



【大項目レベル】



【中項目レベル】



【小項目レベル(上位10項目)】



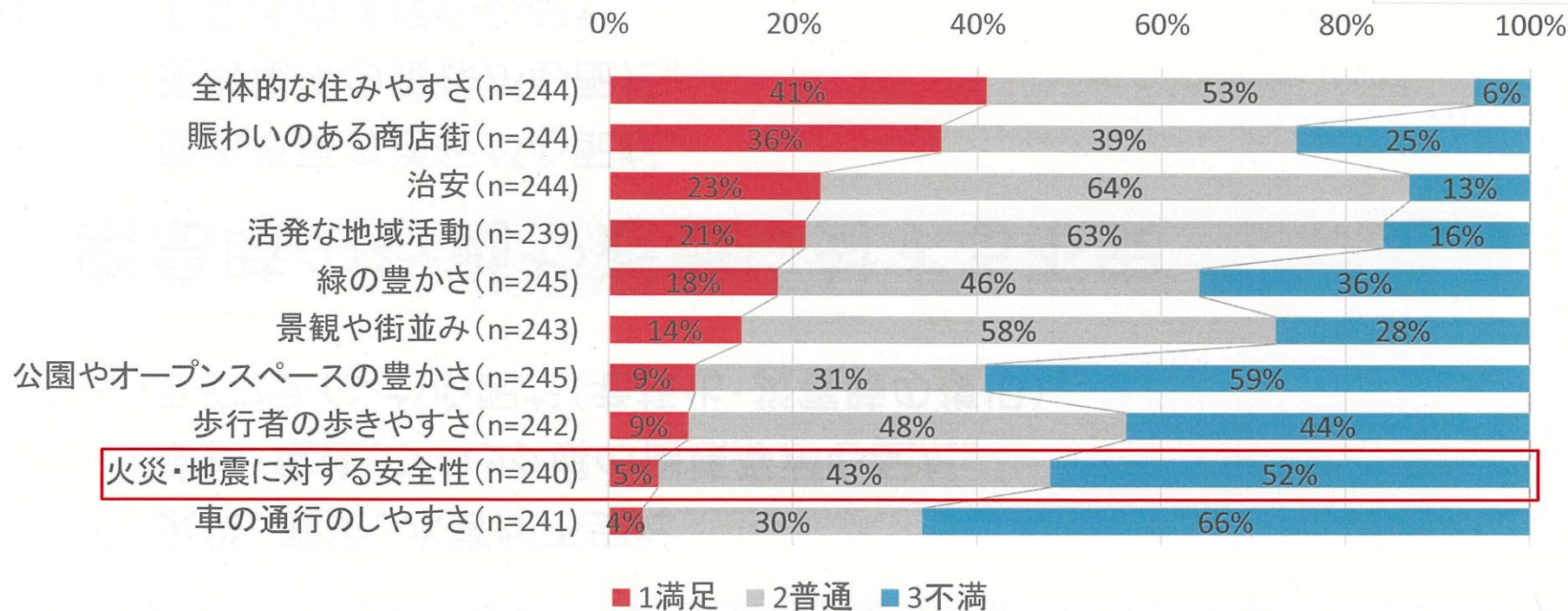
- ・日時: 令和2年9月19日(土) 午前10時~午後3時
- ・場所: 太子堂小学校正門付近
- ・シール投票参加者: 80名
- ・アンケート回答者: 69名

# 地域のみなさんの意見

## ②街づくりアンケート

本地区の状況や今後の街づくりの取組みなどの満足度

### 火災・地震に対する不満の割合が高い



街づくりアンケート(まちづくり通信第1号の紙面使用して実施)

- ・ 調査期間：令和元年10月21日(月)～11月15日(金) ・ 配布数：5,714通 ・ 回収数：250通
- ・ 調査対象：地区内居住者及び地区外居住の土地・建物権利者

### 防災に対する不安

- 火災、震災、水害が不安だ
- 建物・電柱、ブロック塀の倒壊等が心配だ。
- ライフラインが心配だ(老朽化・災害時の復旧)。

### 緊急時の行動や避難に対する不安

- 緊急車両の通行が心配だ。
- 避難場所の確保が心配だ。
- 避難路の確保が心配だ。
- 水害に関する防災活動がない。
- 緊急時の避難や救助活動等が適切にできるか心配(つながり、防災施設等の周知、情報)。

# 問題の背景

---

現状の確認（基礎データのおさらい）

- ① 密集市街地である
- ② 耐火建物の少なさ
- ③ 空地の少なさ
- ④ 古い建物の多さ
- ⑤ 道路の狭さ

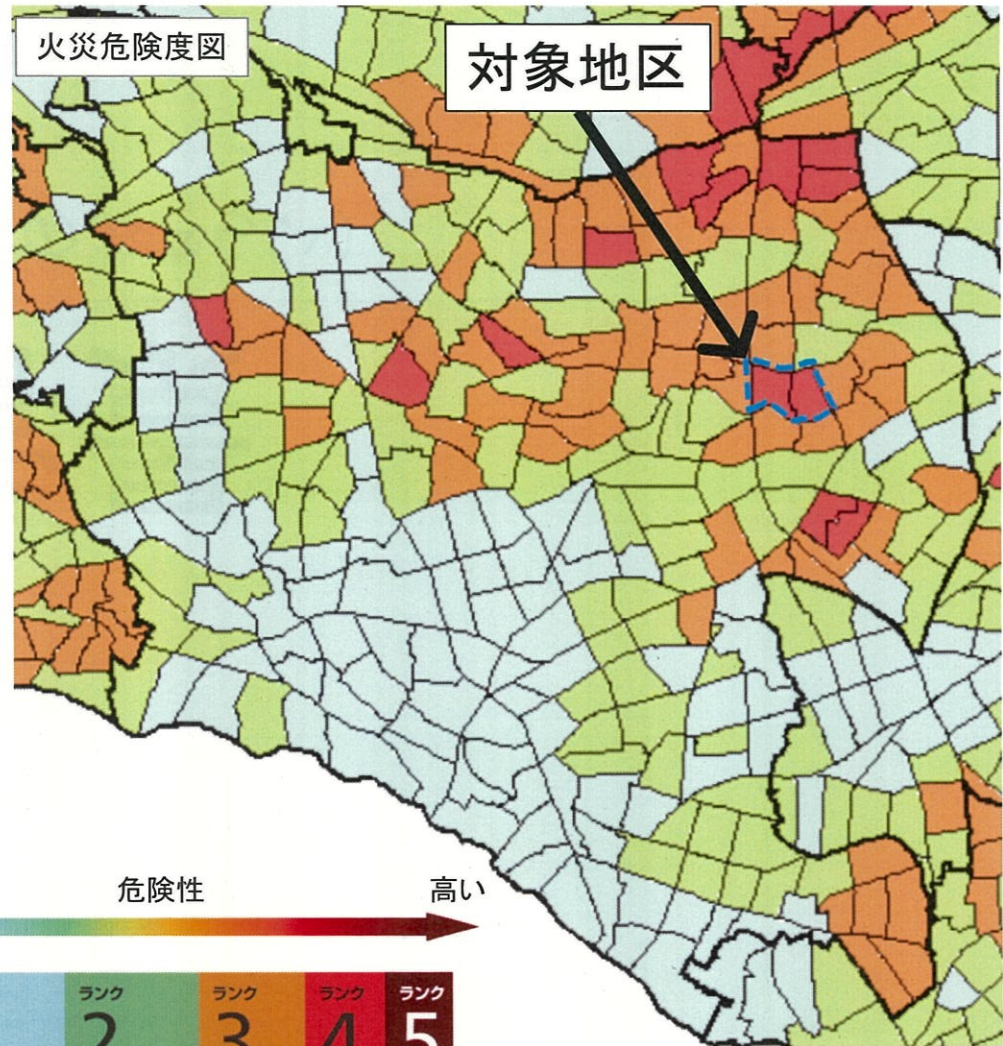
# 問題の背景

## 【火災危険度】

### 火災危険度が高い町丁目の例

- ① 出火の危険性
  - 火気・電熱器保有数：多い
  - 地盤：揺れやすい
- ② 延焼の危険性
  - 建物量：建物が密集している
  - 建物構造：耐火性が低い[木造等]
  - 広い道路・公園等が少ない

主な  
要因



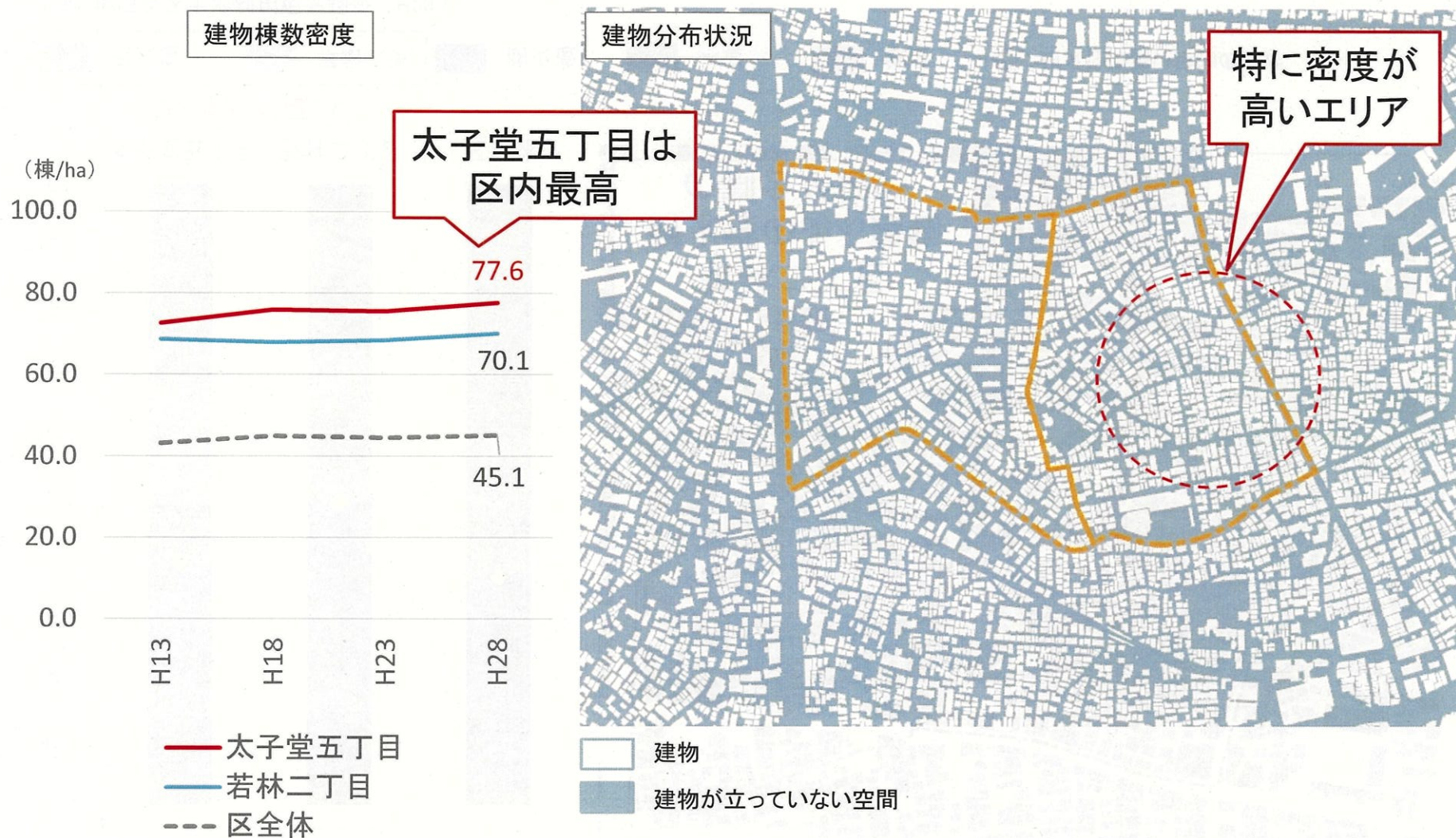
出典：地震に関する地域危険度測定調査（H30/東京都）

補足：火災危険度は、出火や延焼のしやすさから火災の危険性を測る指標で、5段階評価で「5」が最も危険度が高い。区では「5」の該当地区がなく、「4」が最高となる。



# 問題の背景

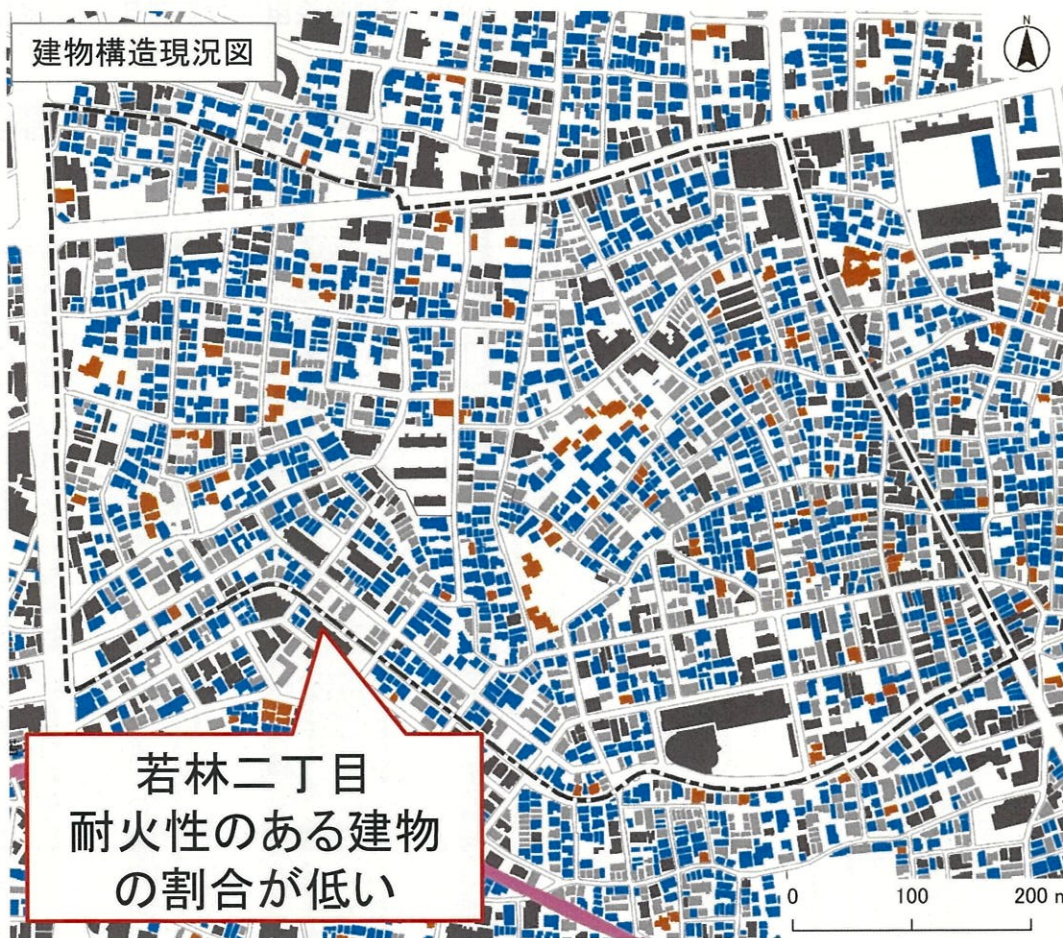
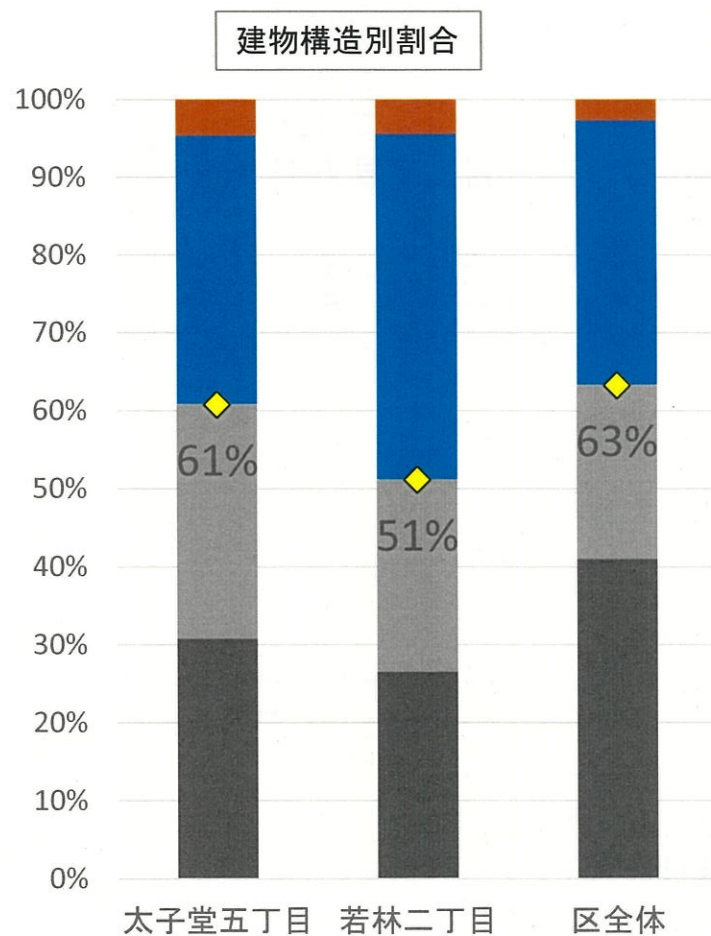
## 【火災危険度】▶ ① 密集市街地である



出典：世田谷区土地利用現況調査(H28)

補足：「建物棟数密度」は、1haあたりの宅地面積に対する建物棟数をさす。

# 問題の背景 【火災危険度】▶②耐火建物の少なさ

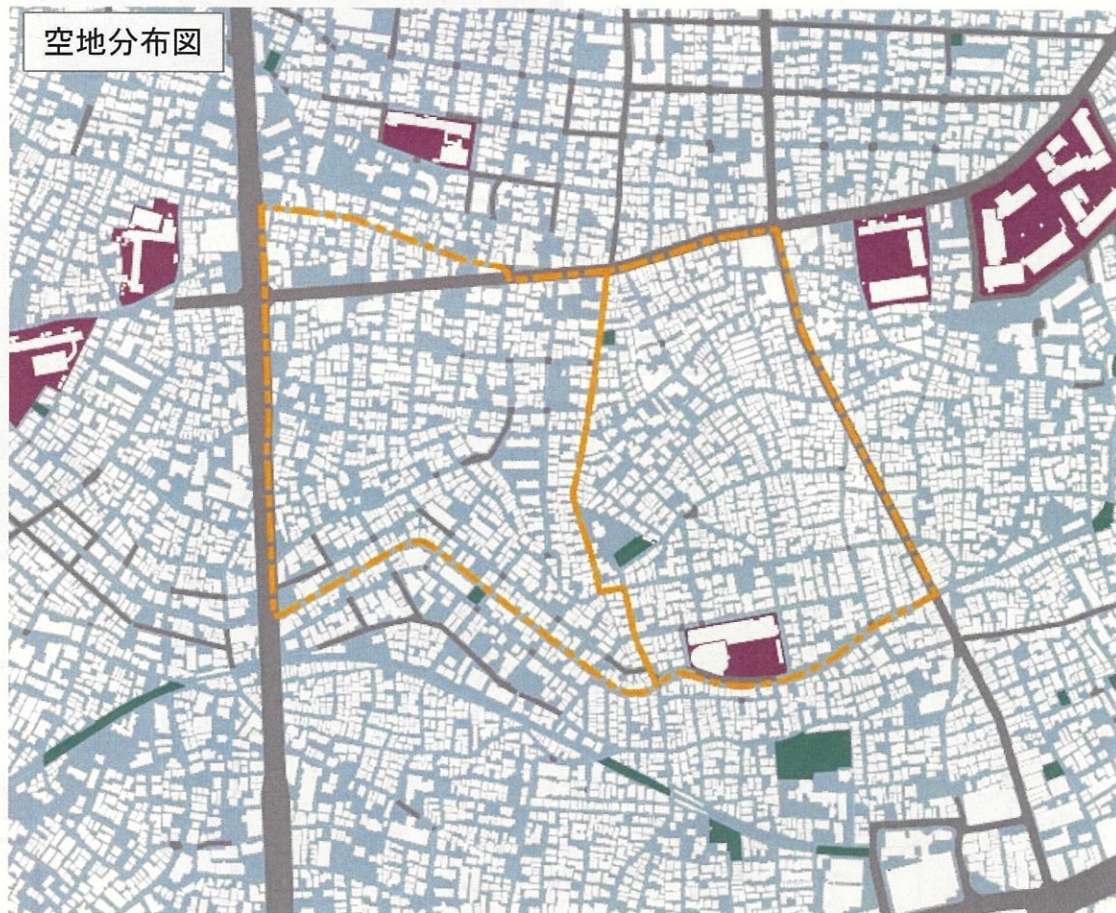
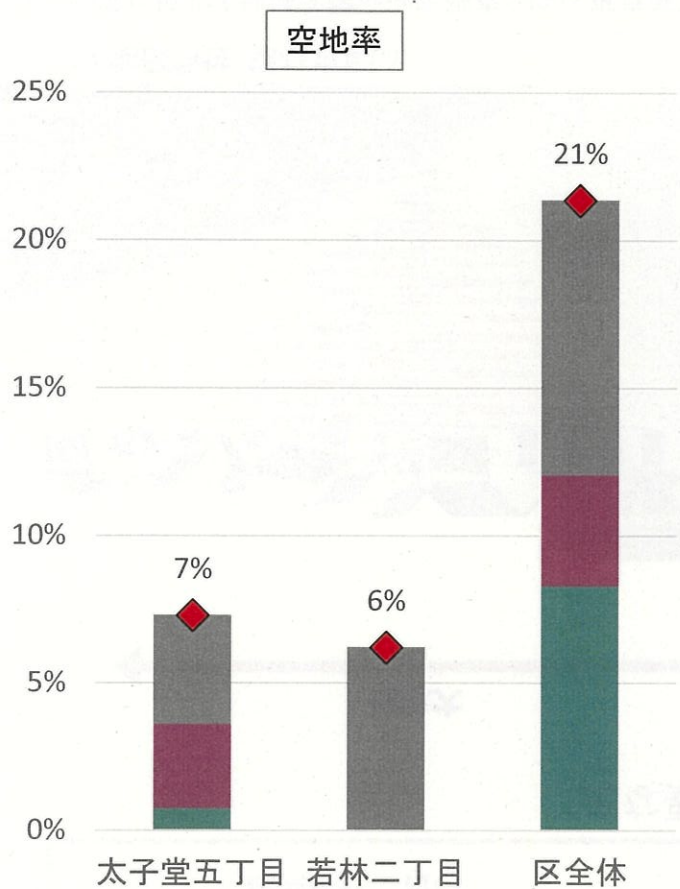


出典: 世田谷区土地利用現況調査 (H28)

補足: 耐火性のある建物の割合は、地区内の建物の建築面積に対する耐火造と準耐火構造の割合をさす。

# 問題の背景

## 【火災危険度】▶③空地の少なさ



- 公園・運動場等
- 公共施設等の空地
- 幅員6m以上の道路
- 建物
- 建物が立っていない空間
- ◆ 空地率

出典: 世田谷区土地利用現況調査(H28)

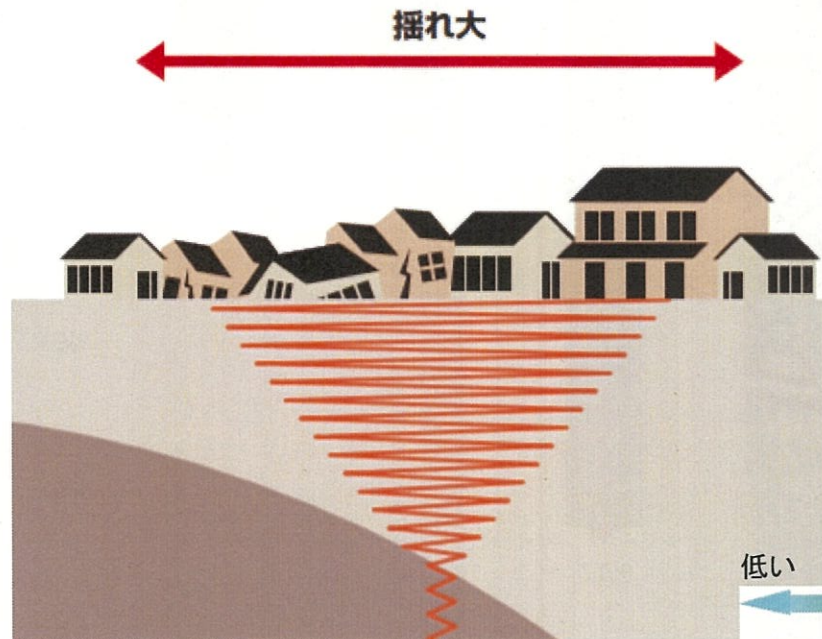
補足: 「空地率」は、地区面積に対する幅員6m以上の道路や一定規模以上の公園・広場等の面積の割合をさす。

# 問題の背景 【建物倒壊危険】

## 建物倒壊危険度が高い町丁目の例

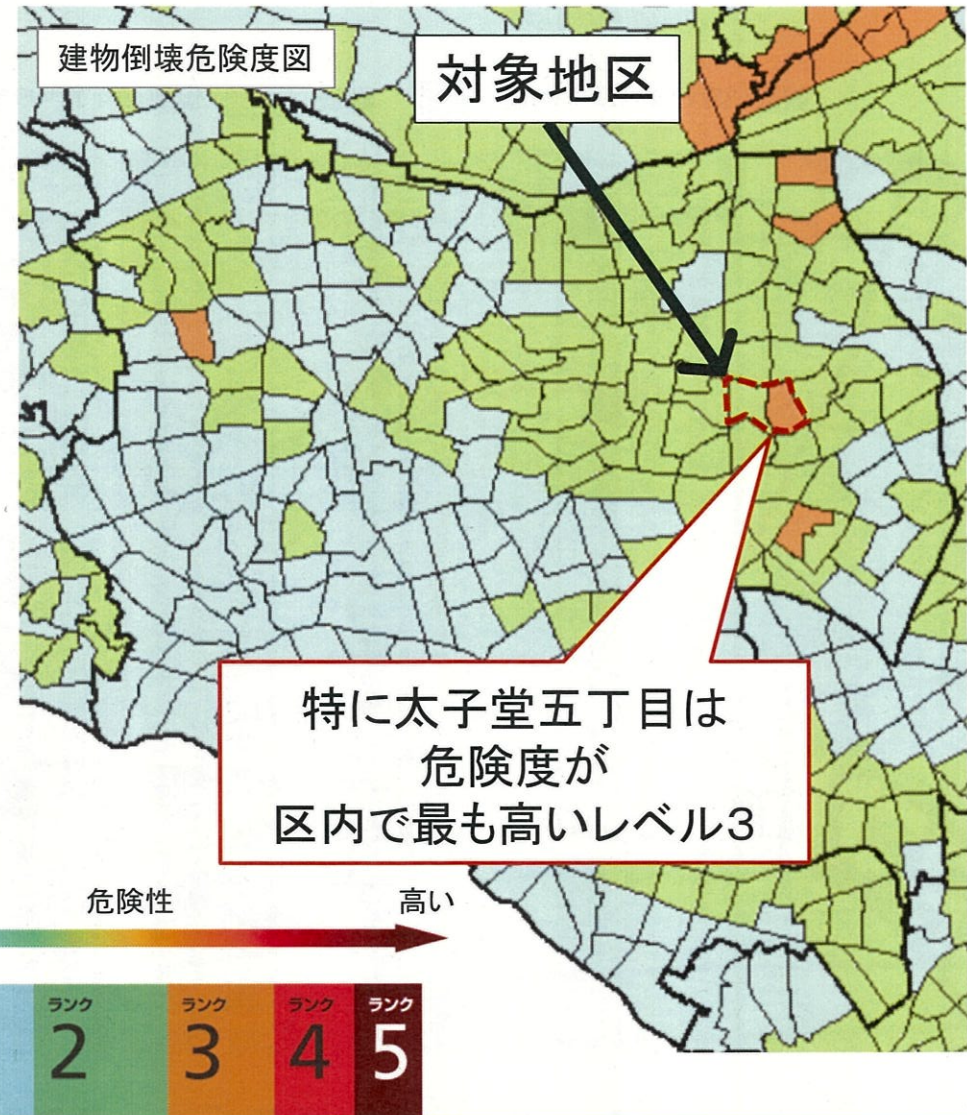
- ② 建物量 建物が密集している
- ③ 建物特性 建物構造：耐震性が低い[木造等]  
建築年代：古い

主な要因



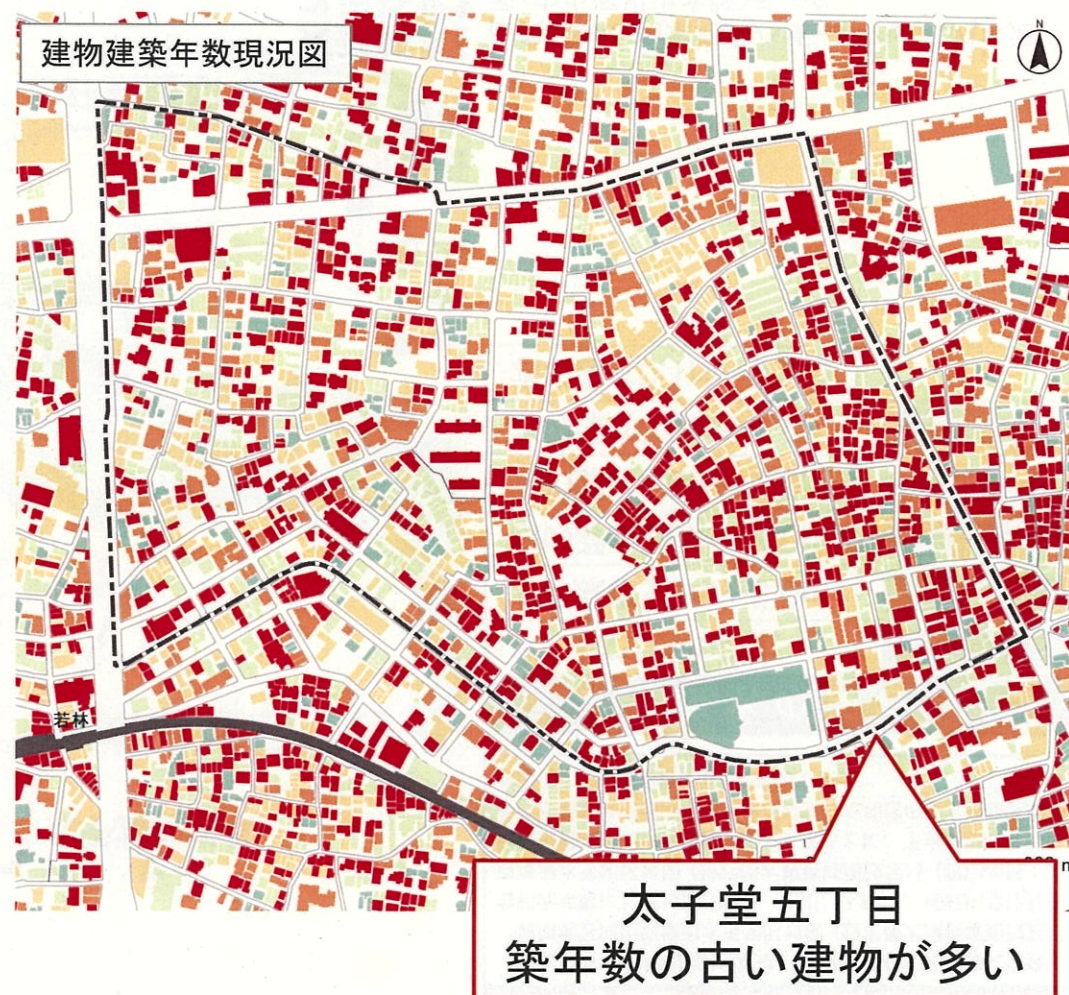
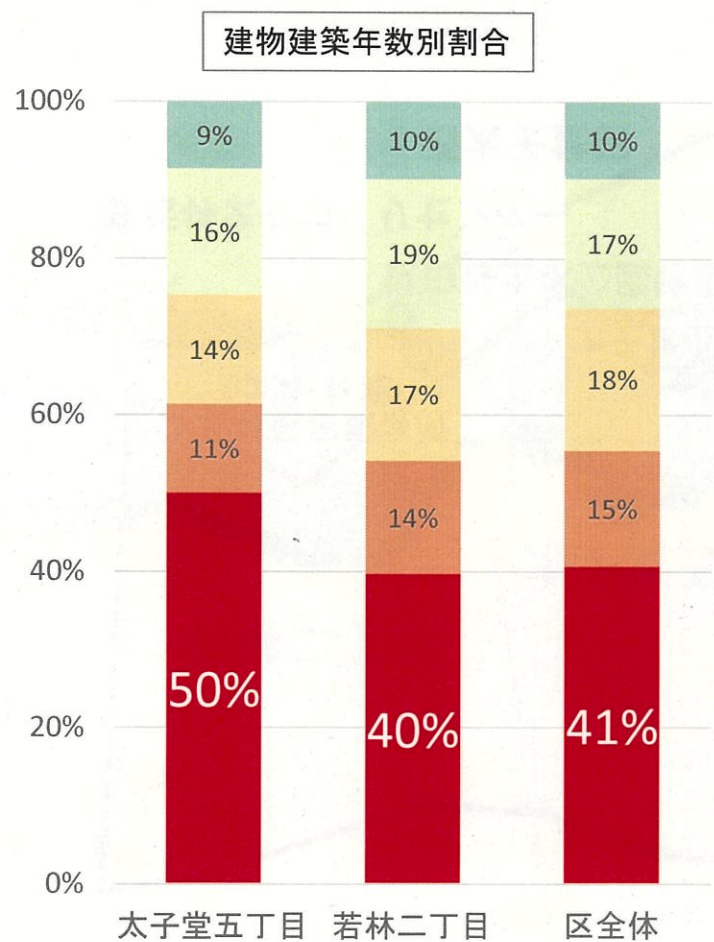
① 地盤特性 揺れやすい

出典：地震に関する地域危険度測定調査 (H30/ 東京都)



# 問題の背景

## 【建物倒壊危険】▶ ④古い建物の多さ



■ ～1981年   
 ■ 1982～1990年   
 ■ 1991～2000年   
 ■ 2001～2010年   
 ■ 2011年～   
 ■ 鉄道

出典：世田谷区土地利用現況調査（H28）

# 問題の背景 【水害リスク】

ハザードマップ(浸水予測)



## 内水氾濫・中小河川洪水版について

内水氾濫・中小河川洪水版は、東京都が平成30年度に公表した「城南地区河川流域浸水予想区域図(想定最大規模降雨改定)」、令和元年度に公表した「野川、仙川、入間川、谷沢川及び丸子川流域浸水予想区域図(想定最大規模降雨改定)」(想定雨量:時間最大雨量153mm、総雨量690mm)をもとに、**下水が溢れる等による内水氾濫や中小河川の洪水が発生した場合**の浸水予想区域や浸水の深さ、避難所等を示したものです。

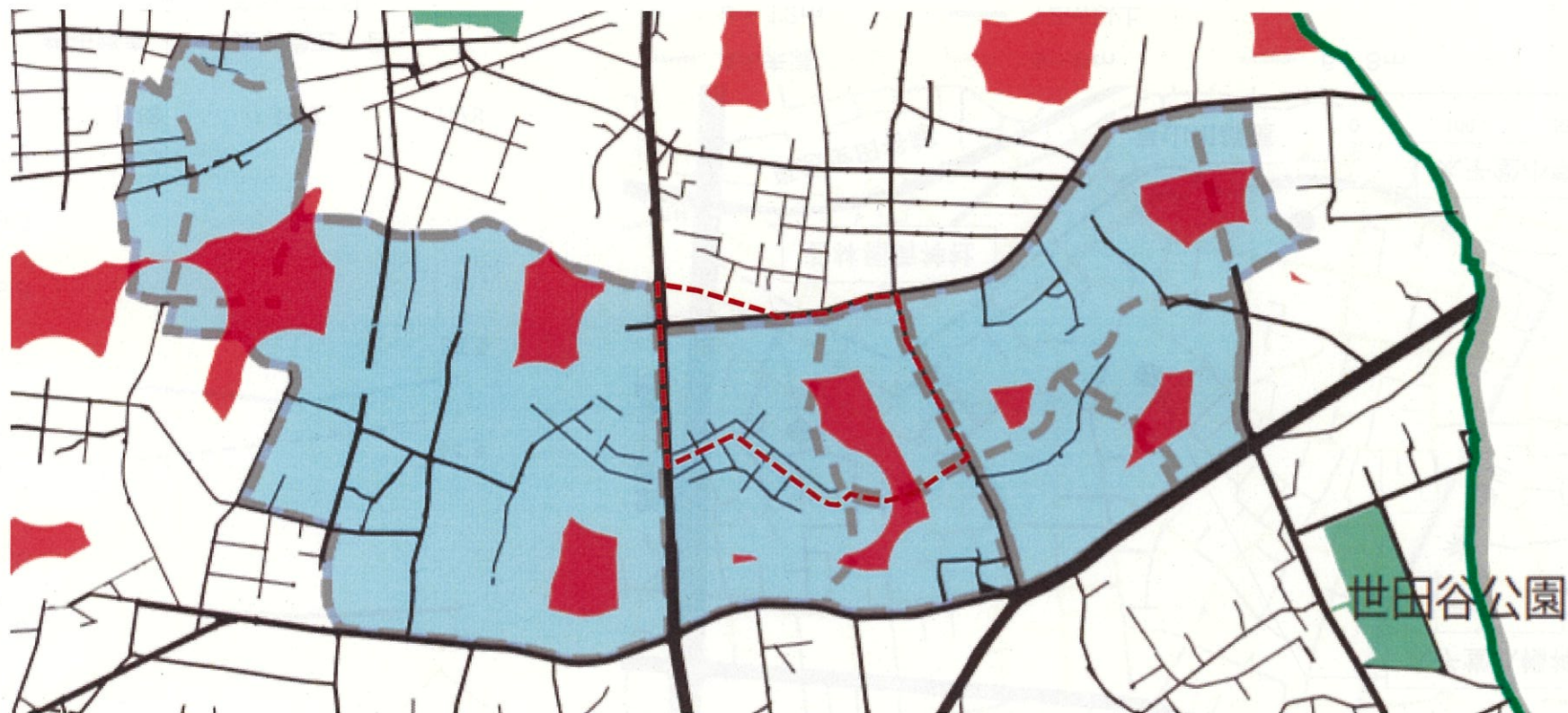
## 浸水の深さ

水の深さ5.0m以上	
水の深さ3.0m~5.0m	
水の深さ2.0m~3.0m	
水の深さ1.0m~2.0m	
水の深さ0.5m~1.0m	
水の深さ0.1m~0.5m	

出典: 洪水・内水氾濫ハザードマップ(内水氾濫・中小河川洪水版)データ

# 問題の背景 【災害活動等のリスク】

消防活動が困難な区域



— 幅員 6m 以上の道路

■ 幅員 6m 以上の道路が不足していて、消防活動が困難な区域



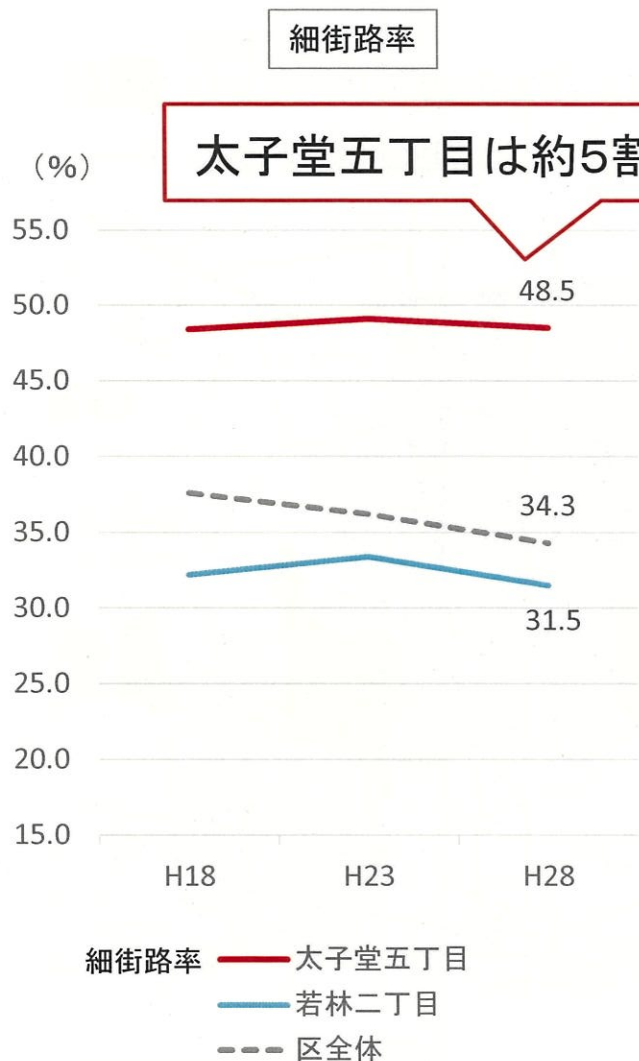
住宅密集地などで、特に防災上の危険が高いと考えられる地域等

- ・地震時等に著しく危険な密集市街地  
(出典：国土交通省「地震時等に著しく危険な密集市街地」について)
- ・防災再開発促進地区  
(出典：東京都 防災街区整備方針)
- ・防災都市づくり推進計画 重点整備地域及び整備地域  
(出典：東京都 防災都市づくり推進計画)

出典：せたがや道づくりプラン

# 問題の背景

## 【災害活動等のリスク】▶⑤道路の狭さ



出典: 世田谷区土地利用現況調査(H28)

補足: 細街路率は、地区内の道路総延長に対する幅員4m未満の道路延長の割合をさす。



# 事例紹介

---

問題解決のために周辺地域が取り組んでいること

# 事例紹介 問題の改善策

## 地域意見

- ① 防災に対する不安
- ② 緊急時の行動や避難に対する不安

## 問題の背景

- ① 密集市街地である
- ② 耐火建物の少なさ
- ③ 空地の少なさ
- ④ 古い建物の多さ
- ⑤ 道路の狭さ

## 周辺地区等で行われている改善策(例)

1 建物の防災性を高める

- 建物の耐震化
- 敷地・建物等の浸水対策
- 建物の不燃化

2 道路とその沿道の防災性を高める

- 道路の適正配置
- 沿道建物の不燃化・耐震化
- ブロック塀等の規制

3 空間を確保して防災性を高める

- 公園・広場の確保
- 建物間の間隔確保

4 地域主体で防災性を高める

- 意識啓発・防災活動の展開

# 事例紹介 1 建物の防災性を高める

## 建物の耐震化

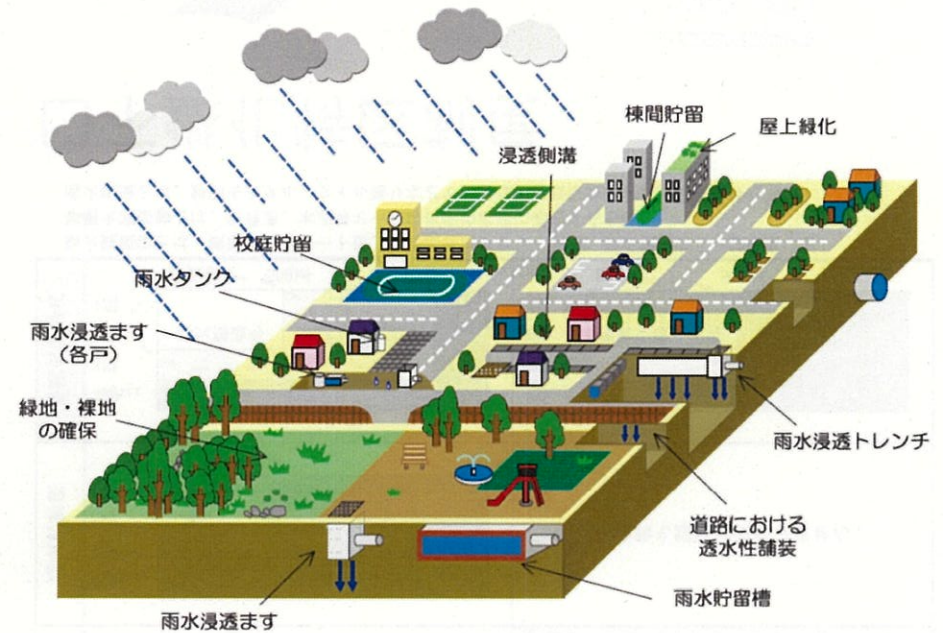
### 【事例】建物の耐震化支援



出典：非木造建築物の耐震化支援事業パンフレット(世田谷区)

## 建物・敷地の浸水対策

### 【事例】雨水流出抑制施設の設置



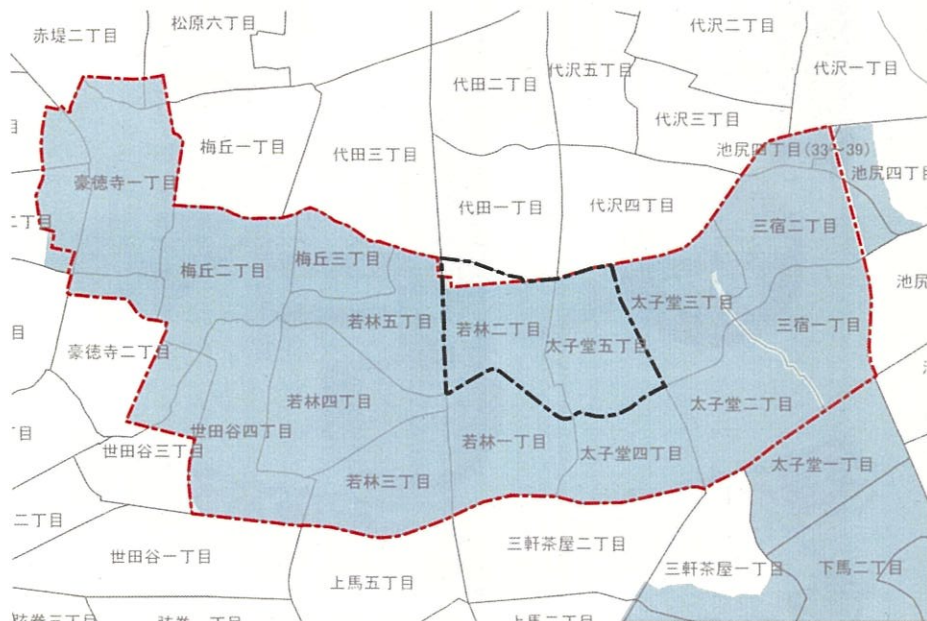
出典：雨水流出抑制施設設置のお願い(世田谷区)

# 事例紹介 1 建物の防災性を高める

## 建物の不燃化

### 【事例】太子堂五丁目・若林二丁目 □新たな防火地域

※どちらの制度も若林二丁目の淡島通り北側を除く



■ 新たな新防火地域  
 □ 不燃化特区

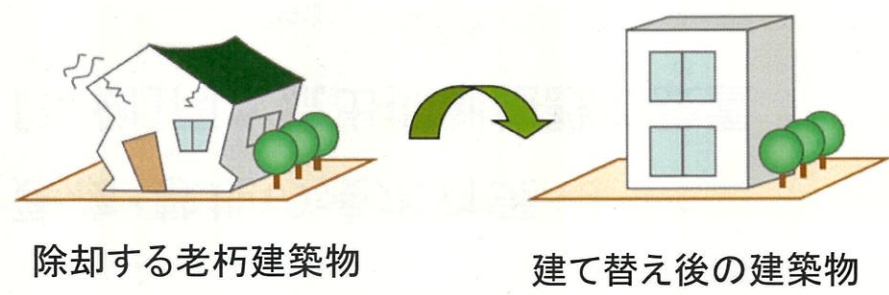
出典:世田谷区内の 東京都建築安全条例第7条の3の規定に基づく「新たな防火規制」区域の指定について、不燃化特区パンフレット(世田谷区)

東京都建築安全条例(H24~)

	指定前	指定後
防火地域内	4階以上 3階 2階 1階 耐火建築物等 準耐火建築物等 床面積 100㎡	指定後も規制は変わりません
準防火地域内	4階以上 3階 2階 1階 耐火建築物等 防火構造等 準耐火建築物等 床面積 500㎡ 1500㎡	4階以上 3階 2階 1階 準耐火建築物等 耐火建築物等 床面積 500㎡

- ・耐火建築物とは、鉄筋コンクリート造、鉄骨鉄筋コンクリート造、耐火被覆をした鉄骨造など。
- ・準耐火建築物とは、鉄骨造、木造等で一定の技術的基準に適合するもの。
- ・防火構造とは、鉄網モルタル、タイル張りなどで外壁などを既定の厚さ以上で仕上げたもの。

### □不燃化特区制度

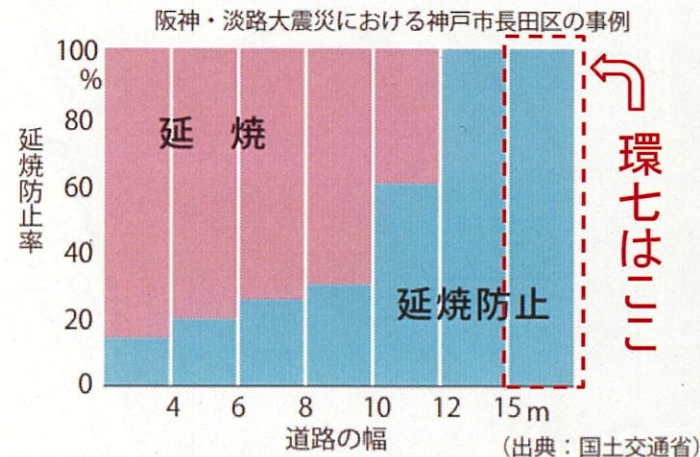


# 事例紹介 2 道路とその沿道の防災性を高める

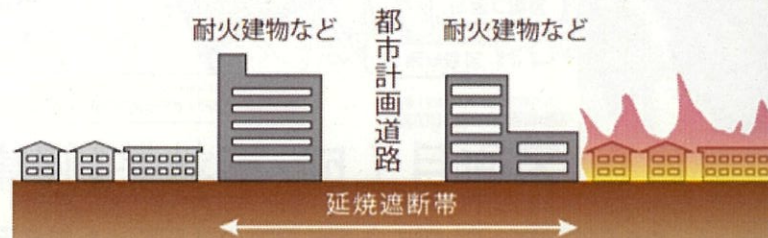
## 道路の適正配置、沿道建物の不燃化・耐震化

### 【事例】環状七号線沿道

(参考)道路の幅と延焼防止率



(参考)延焼遮断帯のイメージ



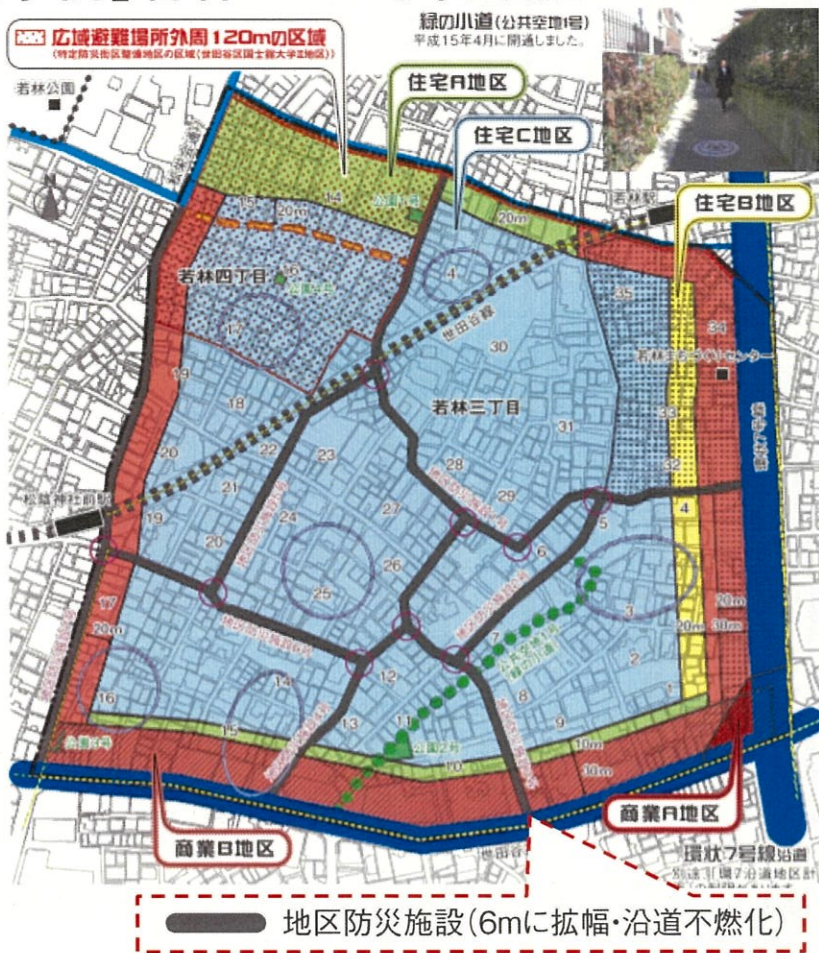
出典：せたがや道づくりプラン



# 事例紹介 2 道路とその沿道の防災性を高める

## 道路の適正配置、沿道建物の不燃化・耐震化

### 【事例】若林三・四丁目地区



出典:若林三・四丁目地区防災街区整備地区地区計画パンフレット

### □避難路の配置

安全な避難路をつるため、  
門や塀等の工作物を  
道路の中心から  
3m以上後退させる



### □避難路沿道建物の不燃化

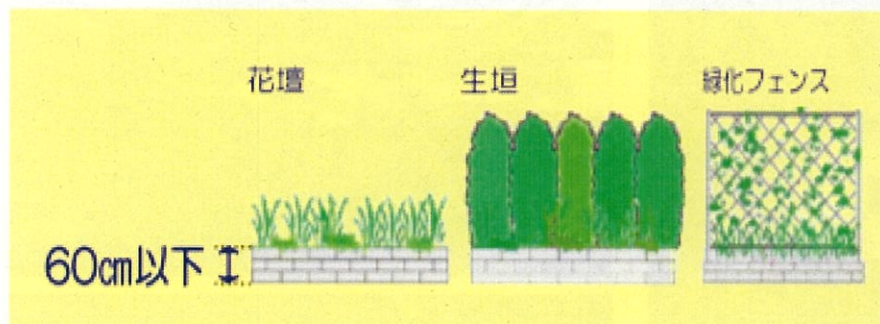
建物の不燃化を進めることで、安全な市街地を形成するとともに、広域避難場所や避難路への熱の影響を少なくして、安全に避難できるようにします



# 事例紹介 2 道路とその沿道の防災性を高める

## ブロック塀等の規制

### 【事例】若林一丁目地区他



出典：若林一丁目地区地区街づくり計画パンフレット

### (参考)ブロック塀等倒壊被害の例



出典：(一財)消防防災科学センター 災害写真データベース



# 事例紹介 3 空間を確保して防災性を高める

## 公園・広場の確保

## 【事例】若林もみじ公園(若林四丁目)

この公園は、行き止まりの道を解消し、広域避難場所への避難経路を確保するため整備しました。





# 事例紹介 3 空間を確保して防災性を高める

公園・広場の確保(ポケットパーク)

【事例】太子堂二丁目(やまもも広場)

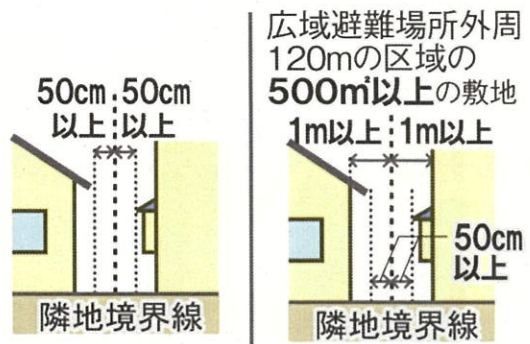


# 事例紹介

## 3 空間を確保して防災性を高める

### 隣棟間隔の確保

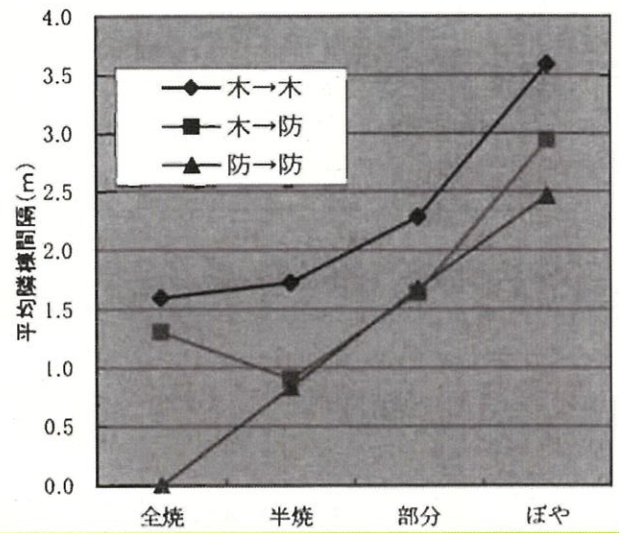
#### 【事例】若林三・四丁目



出窓や軒、雨どいや室外機等の建築設備を含みます

壁面は1m以上離し、出窓や軒等は50cm以上離します

出典：若林三・四丁目地区防災街区整備地区地区計画パンフレット



【グラフ】構造別延焼経路による平均隣棟間隔

出典：隣棟建物への延焼阻止に関する調査研究(苫米地他、消防科学研究所報40号(H15))



# 事例紹介 4 地域主体で防災性を高める

## 意識啓発・防災活動の展開

### 【事例】若林町会

#### 国士舘大学地域連携防災訓練

国士舘大学は若林地域の宝。近年防災分野の連携が強まっています。国士舘大学と日赤は災害時世田谷キャンパスに応急救護所を設置する予定です。若林町会と地域団体の皆様と国士舘大学の学生と救出救護搬送医療トリアージを含む訓練をこれまで5回実施しました。



出典：若林町会紹介パンフレット(若林町会HP)

#### 出前街かど防災教室

防災部と丁目ごとのネットワークを設け、それぞれのまちぐるみの助け合い、隣近所の助け合い体制を強め、効果のある災害時初期活動が行なえるよう、路地裏まで出向いての出前の街かど防災教室や様々な事前防災の備えと防災活動を行なっています。



#### 災害時救出救助講習会

世田谷消防署、災害ボランティアの協力を得て、担架の作り方、搬送の仕方、災害時救出レスキュー工具、チェーンソーの操作講習を行ってきました。



# まとめ

---

問題解決や取り組みを進めるにあたって事例から得られた視点

# 問題の改善に向けてのポイント

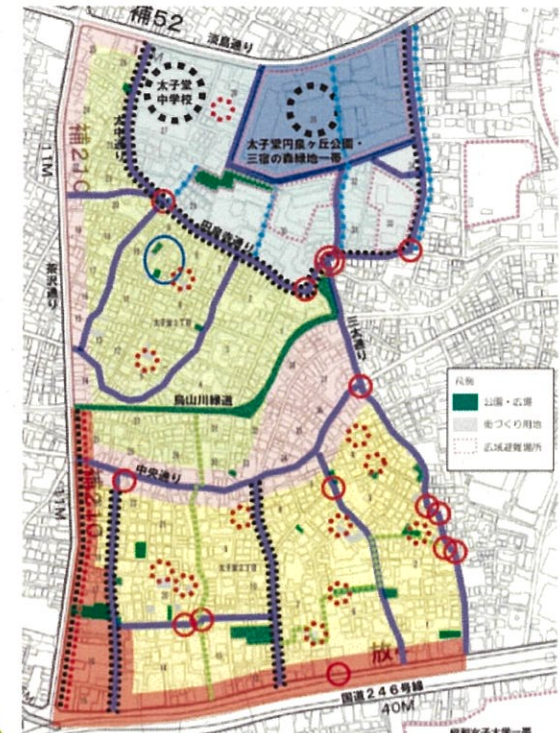
✓ 地域で共有できる  
”計画”を持つ

- ✓ 地域で問題を共有する
- ✓ 地区の実情にあった手法を選ぶ



太子堂五丁目・若林二丁目の  
防災について考えてみましょう。

- ✓ 今後、建物の不燃化等が進められる中、  
地域として防災性向上のためにやるべき事柄とは？



参考:太子堂二・三丁目地区街づくり計画